

平成24年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 記録

平成24年11月29日(木) 14:00～16:00

県庁9階 第一会議室

< 審議会委員 >

菅野 仁委員長，青木栄一副委員長，坪田 益美委員，金田 隆委員，奈須野 毅委員，
伊藤 宣子委員，太宰 明委員，庄子 修委員，小畑 研二委員，八巻 賢一委員，
加藤 順一委員，磯原 眞行委員，石上 正敏委員

(欠席：山口 一美委員，堀籠 美子委員，小野寺 千穂子委員)

< 県教育委員会 >

高橋 仁教育長，熊野 充利教育次長，高橋 剛彦教育企画室長，鈴木 洋義務教育課長，
氏家 仁高校教育課長

(進行)

(公開の確認)

(開会)

(出席者の確認)

(教育次長)

(教育次長あいさつ)

(委員長 司会進行開始)

(委員長) 本日の審議もよろしくお願ひしたい。それでは、まず、事務局から資料確認を願う。

(事務局)

(事務局より、資料確認)

(委員長) 審議事項「平成26年度宮城県公立高等学校入学者選抜方針及び日程について」について、第1回に引き続き審議したい。これについては本日答申を取りまとめたのでよろしくお願ひしたい。

はじめに、第1回の審議会での議論内容を、審議会後に寄せられた意見を踏まえながら確認願ひたい。

(事務局)

(事務局より説明)

(委員長) こういう議論があったということの確認である。以上で間違い等ないか。では、最初に「平成26年度宮城県公立高等学校入学者選抜方針について」、前回の審議内容を踏まえて事務局で作成した変更案を事務局から説明願ひたい。

(委員長) 本日の配付資料 の6ページ選抜日程に私立高等学校25年度日程を明記いただいたことに感謝する。これと同様に5ページの日程案表にも私立高等学校の日程を加えて欲しい。

(事務局)

(事務局より説明)

(委員長) 前回の審議を反映し、かなり意見を盛り込んだ形で変更したのではないかと思う。例えば基本原則 1 (3) とか、2 (3) ウの実施時間等などは要項の方に入れ、選抜方針について骨太の方針に特化した記述にするのがよいのではないかという意見があった。加えて文言の整理で、「入試」と「選抜」という言葉が混在しているのを「選抜」で統一するなど貴重な意見を踏まえて吟味し作り直している。

(加藤委員) 基本的にきちんと整理されているのでこれでよいと思うが、5 の連携型選抜に関する部分の文章の 2 行目に「連携型入試選抜」と「入試」が残っている。特段問題がないのであれば、「連携型選抜」とか「入学者選抜」とかという形の方がよろしいのではないか。

(高校教育課長) 現在、実施要項では「連携型入試」として「選抜」という表現をしていない。その文言を残し、入試のあとに「選抜」を入れている。よって、方針が「連携型選抜」となれば、ここも合わせて直していくことになる。
中高一貫教育の括りとしての連携型という文言を使いながら、志津川高校に関する前期選抜と同時に行う入試に関して (2) にあるような募集人員の設定に関する選抜そのものをこれまで連携型入試と言ってきた。ここを全部「選抜」と直すというのであれば、「連携型選抜」という形になる。

(委員長) 逆に今の選抜方針を生かせば、そこを自覚した上で、ここだけは今の「連携型入試」という表現を生かすという可能性もあるのか。

(高校教育課長) 先ほど提案させていただいたのはその趣旨である。

(委員長) 連携型入試という表現が入試要項と対応しているということなので、ここはそのままでもよろしいか。

(加藤委員) 全体で統一性がとれれば、特段支障はない。

(委員長) では、このあたりをもう一度事務局で確認・精査してほしい。

<了承>

(委員長) 第二次募集の受験資格ということで、前回、伊藤委員から意見をいただいていたが、それについて御意見はないか。

(伊藤委員) 1 回目の審議会で二次募集について述べた発言については、要項で記載するということがきちんと認められた。

(委員長) 石上委員からも、前回、文言の整理について意見はいただいていたが、何かないか。

(石上委員) 発言を取り上げてもらいたいと思っている。
先ほどの「連携型選抜」について話をさせていただきたい。高校入試について、以前は「選抜」という表現をずっと使っていた。例えば推薦入試についても、選抜という形でやってきていたはずである。それが平成 11, 12 年頃であったか、「入試」に揃えて変更してきた。それがまた前期選抜、後期選抜という形で「選抜」に

なったので、また元の形にもどると認識している。「選抜」と「入試」という言葉をもう一度よく考えてみたい。「入試」は入学者選抜と大体等しいと思っている。なので「入試選抜」というように言葉を重ねるのに違和感を持った。また、「連携型選抜」というのも変な感じがする。選抜が連携型ではなく、中高一貫教育が連携型である。そこで、「連携型入試選抜」については、「連携型中高一貫教育に関する選抜」を実施するというのが適切なのかなと思っていた。検討願いたい。

(委員長) 「連携型入試選抜」という言い方に関しては問題もあるということなので、事務局と適宜修正をするということにしたい。

<了承>

(委員長) では、今の議案については、基本的にはこの修正案が承認されたが、「連携型入試選抜」という言い方に関しては、修正を考慮し、委員長、副委員長、事務局で最終的な意見調整をして決定する。全体としてはその修正等を検討しながら答申という方向で認めていただくということによろしいか。

<了承>

(委員長) 次に「平成26年度入学者選抜日程」について、第1回の審議内容等を踏まえた案を事務局から説明願う。

(事務局) (事務局より説明)

(委員長) 前回は、2月3日月曜日の前期選抜という案1で御諮りした。それには様々な意見をいただき、火曜日の案も可能かということも考えた。ただし、これ以上遅くすると様々な支障が生じる。つまり、前期選抜合格発表から後期選抜実施日までの期間を考えるとぎりぎり下げて2月4日ではないかということである。前期選抜の日程を、2月3日か4日で意見を調整できないか。

また、後期選抜の日にち固定に関しては、日にちを固定してしまうと中々融通が利きにくい。学校現場からもヒアリングをした。また3月11日をみやぎ鎮魂の日に制定するという動きもある。これらを考えるとあまり固定化するというのは望ましくない。今後11日が授業を行わないという日になると、柔軟に対応する必要がある。中学校、高校それぞれの立場があるので、固定化はしばらくはできない。

日程について、御意見をいただきたい。

(庄子委員) 前回、後期選抜を日にち固定ではどうかという発言をしたが、やはり何とか後の方に延ばしてもらいたい。3月4日に実施した平成22年度は、授業時数の確保に大変苦労をした。あの時と比べ、今は学習指導要領も変わり、更に35時間増えて、お盆明けにはすぐに授業をするという学校がほとんどである。ただ、日にち固定は厳しいということも理解できる。

後期選抜は、これまでの慣例であれば木曜日という曜日指定できていた。その延長線で行くと、27年度は3月5日、28年度は3月3日と早まっていく懸念がある。金曜日や月曜日は避けたいということも分かる。そこで、折衷案ということではないが、火から木曜日までの間で実施する。例えば27年度でいえば3月10日、28年度では3月8日とか、少なくとも3月上旬の後半、6日以降に後期選抜日が来るような配慮はしていただけないか。26年度については、このままで結構である。

(委員長) 授業日程の確保ということを考えると、木曜日固定で行くと、例えば27年度で3月5日、28年度では3日まで繰り上がってしまう。これについて配慮できない

か、火から木曜日までの間で調整を考えられないかという案である。これについてはいかがか。

(高校教育課長) 3月11日周辺の状況や実施上の課題その他も踏まえ、なるべくならば火曜日から金曜日までの間に実施できればいいということで、27年度以降の分については更なる検討をしたい。微調整の可能な部分と思うので、御意見を踏まえつつ、事務局として鋭意検討していく。

(委員長) 高校側として、磯原委員、このことについて意見はないか。

(磯原委員) 10日では少し遅いかと思う。二次募集があった時などの後ろの日程とのつまり具合が大きくなる。金曜日は高校としてはあまり支障がないかと思うが、月曜日と金曜日を除いて、前後の状況を勘案しながら日を決めていかざるを得ないと思う。

(伊藤委員) 私学側から発言をさせていただく。

平成25年度の入試の実施により実態が見えてくるとい思いながら、平成26年度の審議・答申という時期が来ている段階で、26年度についての願い事は可能か、審議の先延ばしは可能かということは何とも言い難いが、私立の募集活動を通して聞こえてくることは、私立学校は1月28日、30日に、A日程、B日程で入試を行う。この入試改革の中で、私立学校の一般入試が1月に入り込んできたところから、もう少し中学校の学習環境を守るためにも、日程を後にできないのかという意見が寄せられた。公立が1月31日であった24年まで私学は2月に入試を実施してきた。これが公立の2月1日前期選抜実施によって私学側は1月の方に前倒して入ってしまった。中学校の生徒のために入試があると考えれば、中学校の学習環境を守るということに私たちの心は動く。そこで私学の一般入試と公立の前期選抜を2月に入ってから実施するという日程を公私協で協議することをお願いしたい。25年度の入試を実施しての分析を27年度からの日程設定に生かしていただきたい。高等学校を持っている私学の大学入試の指導を考えても、29年度の曜日の並びを見ると非常に厳しくなっている。26年度については、今の中学校2年生に向けての教育活動の開始を考えれば今が最終答申の時期なのであれば、27年度からの在り様を一考する機会を設けていただきたい。

(委員長) これについて事務局から何かないか。

(高校教育課長) 平成27年度以降については、私立高校の入試が1月、公立高校入試が2月上旬という形で実施してみて更なる微調整が必要ということになれば検討していくということになるが、大幅に動かすということではなく微調整の範囲で進められればと思う。

(委員長) これまでの意見を整理すると、27年度以降に関して、中学校側からの後期選抜の日程に関する要望、私学としての前期選抜に関しての調整の要望という2点に関して議事録に載せ、来年度以降の検討課題として明記しておきたい。

では、26年度の日程について意見をいただきたい。前回、月曜日の実施について御意見をいただいた磯原委員から何かないか。

(磯原委員) 月曜日の実施に関しては、金曜日の準備となり土・日曜日の中2日間学校を閉鎖する可能性があり、高校の教育活動としては支障がある。また、金曜日に会場の設営した後、月曜日まで会場を維持することになるが、リスクは高まると思っている。そういう意味では、前日に準備をして一晩で入試が実施できる形の方が全体としてリスクが少ない。私としては火曜日の案の方がスムーズでいいと考えている。

- (委員長) どの曜日にも雪が降れば大変だが、朝の通勤ラッシュなどを考えると月曜日のリスクは高いということは私も考えていた。
前期選抜で失敗した場合に後期選抜に出願することになるが、日程の幅等で、保護者の立場として奈須野委員から何か意見はないか。
- (奈須野委員) 期間を設けるのにどこが適当かということはあるが、やはり子どもの精神状況とかをみて、ある程度一定の時間はおいた方がよいと親として思う。
- (委員長) 私が見る限りでは、1案と2案では1日の違いで、2月3日の月曜日と4日の火曜日ということでも決定的な差はないと思っている。
- (加藤委員) やはり月曜実施は難しいと思う。入試の処理そのものだけを見れば、高校の現場としては水曜日、木曜日の実施の方がスムーズに行く。ただ全体のバランスを考えなければならないところなので、今回の提案の中では2案か3案だろう。ただ、2案となれば処理日程的に非常に厳しい。中3日で発表ということになる。よって、3案でお願いできないか。今年の前期選抜をやってみないことにはどの程度の処理の時間になるのか読めないところもある。25年に比べ26年は、学校の処理に使える日程は厳しくなるのははっきりしている。2案では職員の不安も強まるであろう。最低でも3案にしていきたい。安心を考えると、それより下げた方がいいという思いはないわけではないが、後期の日程に影響してくるので、3案が現場として最大限妥協できる線とみている。
- (委員長) 私自身も、客観的にシミュレーションしてみても、3案ではないかと思っていた。3案を答申内容としたいがいかがか。
- (小畑委員) 厳正な選抜入試の実施等に大切な要件はたくさんあると思うが、義務教育では学習指導要領の標準時数というのがあり、教科及び必修の学級活動で年間1015時間、これは卒業式も入学式も体育大会も修学旅行等を除いての1015時間である。4月から授業が始まって、1000時間を超えるのがいつ頃なのかということも、考え合わせる要素としては必要なのではないか。
- (委員長) これについて事務局から何かないか。
- (高校教育課長) 当然、中学校の授業日数は確保すべきである。それも踏まえながら、日程については検討すべきと基本的に思っている。ただ26年度については、提示された範囲で実施したいと考えている。例えば後期入試などをどんどん下げていくと当然次の入試日程に影響してくるので、下げるのも限界がある。これまで実施してきた推薦入試、一般入試の流れの中で課題が提示されてきたので、27年度以降は、細かく日程を検討しなければならないと思うが、26年度については、案の中で決定していきたい。
- (委員長) ぎりぎりの日程でやらなければいけないということになっているので、26年度については3案ということで認めていただきたいと思う。
- (伊藤委員) 委員長の発言内容を確認したい。25年度は公立も私立も大きな入試改革の実施年である。これがどう展開されていくのか、その結果どんな課題が出てくるのか、それらを冷静に分析しながら、27年度の入試の在り方を考えていくことをここで確認するのが大事ではないか。26年度はこれでやるしかない。そう考えた時に、この範囲の中で受験生にとって最善のことは何かを考えるとやはり3案で実施するほかない。ただし、27年度については、公立も私立もすべて含めて25年度の入

試の在り方，そして中学校の教育，高等学校の大学進学への教育も含めた形で，分析することを願う。

(委員長) 26年度については，3案の形で答申をする。ただし，27年度以降については，25年度の実施を踏まえながら中学校の授業時間の確保，私立との兼ね合い，受け入れる高校の準備を踏まえて，最終日程の入試まで考えた時の要素を様々に検証して27年度以降はきちんと対応を考えるという方向で行きたい。これでよろしいか。

<了承>

(委員長) では，日程の答申は3案ということで皆さんに了解いただいた。ここで15分程休憩としたい。

(再開)

(委員長) 先に一任ということでこちらで引き取らせていただいていた，選抜方針の修正について確認していただきたい。

協議の結果，次のように修正した。「連携型入試」というところを「選抜」とする。理由としては，その本文に「連携型中高一貫教育を実施する高校は連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とし」という文言があるので，あえてもう一度連携型云々として混乱するよりは，すっきりと「選抜」としたい。この方が，御意見としていただいた「入試」や「入学者選抜」とかをどうするかということを考えなくてすむ。

また，6の社会人特別選抜のところ，「当該高等学校長」というように「当該」を入れた方がはっきりするのではないかと考えた。

以上2点について確認願いたい。

では，答申の前に3 報告ということで，平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る第1回予備調査結果について，事務局から報告願う。

(事務局) (事務局より説明)

(委員長) 初めての前期選抜，後期選抜ということで，志願者の予備調査に少し動きがあった。前期選抜について，受験生が積極的に志願しようとしている傾向がみられるのではないかとということであった。今の報告について何か御意見・御質問はないか。保護者の立場ということで，奈須野委員何かないか。

(奈須野委員) 子どもが自分の可能性に挑戦するという結果が前期の調査結果に出たのかと思う。人気校に偏っている傾向がみられるので，郡部の学校の存続や生徒の確保に若干危惧する部分はあるが，全体的には子どもたちのやる気が見えている。

(委員長) 今，人気校ということもあったので，加藤委員何かないか。

(加藤委員) 本校の場合，前期選抜の倍率が6.92倍だが，2回目の予備調査，本出願に向けてこの数字がそのままということはないだろうと思っている。本校を目指す子どもたちが多いということは嬉しいことではあるが，一方で前期選抜においては定員が20%，64名なので，多くの生徒たちが不合格になるということに，校長としては不本意な部分はある。本校の前期選抜の場合，今年の場合は特に評定平均を明示しなかったということに目が行ってしまい，そのことで生徒たちの動向というのが多少あるかと思っている。課題として，本校の条件に評定平均は入っていないが，文章として求める生徒像というのは示しているのだから，そういったところの広報活動

というのは今年に限らず次年度以降徹底してやっていきたい。前期選抜で求めるものについて、中学生にきちんと知らせていくということが大事だと思っている。多くの中学生が本校に入りたいと思ってきているのが学校にとって励みであるのでそのことを大事にしたいと思っている。

(委員長) 何分初めての試みということで、これから検証しなければならない要素も多分にあると思うが、とりあえず今回はこういう報告を受けたということで御理解いただきたい。報告は以上で終了したい。

事務局の方で、答申の準備はよろしいか。

先ほど答申文については確認している。選抜方針については、先ほどの修正を含めて御了解いただいた。選抜日程については、前期選抜が2月4日火曜日、合格発表が2月12日水曜日。後期選抜については3月6日木曜日、合格発表が3月12日水曜日ということになる。これをもって、私が押印の上、答申させていただきます。

では、答申を行う。

<委員長から教育長へ答申>

(委員長 答申文読み上げ)

(教育長あいさつ)

(委員長) 答申については以上で終了する。

事務局から、「その他」として何かあるか。

(事務局) (説明「平成25年度の入学者選抜審議会の進め方について」)

(委員長) ただいま事務局から説明のあった専門委員会組織について、今日の議論でも、平成27年度以降の入試についてはきちんとした検討のもとに、日程等も含めて検討する必要があるという御意見もあった。そういうことも踏まえながら、委員長、副委員長、事務局としても、新しい入試制度が始まるということで、きちんとした検討を踏まえていかなければならず、専門委員会を組織したいと考えている。いかがか。

(伊藤委員) 事務局からの提案に賛成する。専門委員会の開催が8月、10月、その前に7月に入学者選抜審議会。専門委員会での調査は入学者選抜審議会が終わった後ではないのか。

(委員長) 日程として、専門委員会の設置についてもう一回確認したい。

(高校教育課長) 7月の第1回目の開催の後に専門委員会を設置する。それより前には、入試の結果を踏まえて、事務局で材料を用意したり、内々に聞き取りを進めたりしながら、7月の第1回目の審議会での委嘱の後にできるだけスピーディーに2回ほどの専門委員会を行い、11月を迎えたい。7月によろやく始まるように見えるが、その前から調整したいと思っているのでよろしく願いしたい。

(委員長) 制度的に委嘱の承認等の手続きをしていくとどうしても正式な活動としては7月以降ということになる。その前に下準備等万全を期していただくということで理解願いたい。専門委員会の設置そのものについては了承していただけるということでよろしいか。

<了承>

(委員長) 委員から何かあるか。

<なし>

(委員長) 事務局から、「その他」についてあるか。

(事務局) 特になし。

(委員長) 本日の審議はこれまでとし、これで議長の任を解かせていただく。
(委員長あいさつ)

(進行) (会進行)

(教育長) (教育長あいさつ)

(閉会)